

県名の由来

(近畿地方)

1 京都府

「京都」は、京と都の二つの「みやこ」を意味する言葉が合わさってできた。元々は中国で天子がいる「みやこ」つまり首都を意味する普通名詞だったので、日本では飛鳥京、恭仁京なども京都と呼ばれていた。

794年に平安京が首都となり、その後長きにわたり「みやこ」であり続けたが、平安時代後期から「京都」が平安京を指す固有名詞となり、鎌倉時代には定着している。

1868年(慶応4年)に京都府となり、明治4年の廃藩置県で京都府として再設置されており、明治9年に現在の府域となった。

2 兵庫県

大化の改新の際に、この地域を防備するための兵器を収める倉庫である「兵庫(つわものぐら)」が設置されたことに由来する。

慶応4年に兵庫県として設置され、県庁は今の神戸市に置かれた。県域は、その後の変遷を経て、昭和38年に岡山県の一部が編入されて現在のものとなっている。

3 滋賀県

県庁の置かれた滋賀郡大津町に由来する。シガは石の多い場所を表すという説が有力である。

明治5年に滋賀県として設置されたが、明治14年に日本海に接する北部地域が福井県に編入されて現在の県域となった。

4 大阪府

中世に小坂(おさか、おざか)、大坂(おさか、おざか)という名称が登場するが、明治時代に「大阪(おおさか)」と改められた。この坂とは、大阪城付近を北端とし、南方向に細く連なる上町台地(うえまちだいち)に登る坂に由来するとされる。

明治元年に設置されて今の大阪市に府庁が置かれたが、府域は、その後何度か変遷があり、明治20年に奈良県が分離して現在のものとなった。

5 奈良県

古代の都である平城京が置かれた地「なら」に由来し、古くから乃楽、平城、寧楽などと書かれていたが、平安時代に「奈良」になった。

明治5年に奈良県となったが、その後堺県や大阪府に編入され、明治20年に奈良県として再設置された。

6 三重県

明治5年に県庁が置かれた四日市が三重郡だったことに由来するが、その後県庁の所在地は津に変更されたものの、そのまま「三重」が使われ、明治9年に三重県が再設置された。

古事記によると、ヤマトタケルが東方遠征を終え、現在の桑名から亀山に向かう途次、「吾が足は三重のまがりの如くして甚だ疲れたり」と言われたとされる。

7 和歌山県

豊臣秀吉が和歌の浦と岡山を合成して「和歌山」と命名したとされている。和歌の浦は入り組んだ湾形が潮の満ち引きにより刻々と変化する風光明媚な地であり、歌枕ともなっている。

江戸時代以後も城下町で、県名はその名称を採って明治4年に和歌山県として設置され、県庁は今の和歌山市に置かれた。

江戸時代に徳川御三家の一つ徳川紀伊家の城があった所だが、和歌山の県名が付けられたのは、和歌山が秀吉時代から続く城下町だったことからだと思われる。